

名古屋丸の内ロータリークラブ
Nagoya Marunouchi Rotary Club
Weekly Report

例会会場：名古屋クレストンホテル
(TEL : 052-264-8000)

例会曜日：木曜日 12時30分

クラブ会報広報委員長：山崎 彰子

HP : <http://nagoya-marunouchi-rc.org/>

2022-23年度 R.I. テーマ
会長：ジェニファー E・ジョーンズ



承認
会長
幹事
事務局

1995.03.28

武山 卓史

加藤 豊

名古屋クレストンホテル

1007号

名古屋市中区栄 3-29-1

TEL 052-263-1324

FAX 052-263-0730

E-mail seinan1@fancy.ocn.ne.jp

武山卓史会長 年度目標：「ロータリークラブは素晴らしい！」自分と周りが笑顔でつながるクラブを目指して

第1222回 例会 No. 31 令和5年 6月1日 (木)

■ロータリーソング	「君が代」「奉仕の理想」
■出席報告	会員43名中25名出席
■出席率	60.98% 出席計算人数41名
■スピーカー	高坂昌志さん

会長挨拶

武山卓史

みなさんこんにちは

先月の5月25日にクレストンホテルで「呉燕さんを囲む会」が行われました。ゲストに磯部さんのご夫人とプリヤンティカさんご家族、リネアさん、ニヤットさんの出席をいただきました。呉燕さんは中国で弁護士として活躍されていて、今は上海在住と言っていました。森田さんがカウンセラーでした。うちの20周年の記念誌を呉燕さんにお渡ししました。出席者みなさんからコメントをいただいて、出席者15人の本当に和やかな会でした。リネアとニヤットさんと呉燕さんとプリヤンティカさん、青少年留学生と米山学友・奨学生がそろったという素晴らしい会でした。プリヤンティカさんにクリスマス会に出たいと伝えていただきましたが、こうやって出席して下さることはうれしいことだと思っております。

そして来週6月11日に名古屋丸の内ロータリーチャリティーフェスということで、今日は協賛をいただきまして、協賛と引き換えにチケットをお渡ししましたが、招待券2枚となっておりますが、家族の方であれば細かいことは言いませんので、ぜひお越しください。もし会社の従業員の方で来たいという方がいましたら、当日券で来ていただいても結構ですし、ロータリークラブの方はそのまま値段を上げずに前売りの値段で販売しますので、言っていただければと思います。公式のチケットサイトがありまして、今、275枚だったかな…。そこその人数になりますが、チケット代が安いということもあって、収支が予想以上に厳しいです。分刻みで12組くらいのアイドルさんが入れ替わり立ち代わり目まぐるしく、1グループ3曲4曲くらいで変わっていくと思います。なかなか聴く機会はないと思います。どの時間に来てもいいですので、3時半から5時くらいは物販でステージをやらずにみんなファンの方との交流をしている時間ですので、それ以外の時間であればどの時間に来て同じようにアイドルの方たちがステージをやっておりまして、どちらかというと二部の方が人が少ないと思います。5時20分から名古屋聾学校の子どもたちが、演奏しますので、こちらぜひ見て頂いたらと思います。うちで卓話をさせていただいた沢井さんという方が、出演もしますし、総司会をするということになっていきますので、ぜひお越しただけならなあと思います。楽屋にも来ていただいて、差し入れは駄菓

子で結構ですので、菓子折りですと高級すぎて口に合わないそうですので、スーパーで売っているファミリーパックなどのお菓子を何個か持ってきてくださるとありがたいと思っております。ぜひ気軽に家族もお子さんも、プリヤンティカさんの娘さんも来たいと言っているそうですので、気軽に来てください。わからないことがあったら僕に言ってくだされば、会場には手伝いのロータリーのみなさんと僕もいますので、ぜひ気軽に声をかけてくださればと思います。

今日と5日は安江さんでロータリーミーティングがありますのでよろしく願いいたします。安江さんに招待チケットを、ラミネートしたのを置いておきますので、交換していただければと思います。

ニコBOX

●本日は新入会員卓話です。高坂昌志さんにお話しいただきます。宜しくお願い致します。

武山、藤田、川原、水野、後藤、安江、河原、岩田、山崎彰子、恵利、松尾、長谷川、黒田、杉江、堀江亮介、堀江俊道、田島、今村、亀井、高橋、西川、田中、高坂 (敬称略)

加藤さん 本日、新しい施設がオープン致しました。ちくさ SUIKOU TEI (翠香邸)を宜しくお願い致します。

磯部さん 先日、米山奨学生の中国の呉さんと久しぶりに会えました。弁護士となられて、上海で活躍されてます。

本日合計 59,000 円

6月の祝福

誕生日		結婚記念日	
8日	加藤 豊さん	1日	亀井さん
10日	恵利さんご夫人	5日	西川さん
16日	水野裕善さん		武山さん
17日	小菅 誠さん	7日	古川さん
27日	高橋伸人さん		木村さん
30日	小原さんご夫人	9日	岩田さん
		21日	長谷川さん



カンボジア支援報告

藤田 守彦

クラブの予算とみなさまのご寄付によりまして無事にカンボジアへ物資を送りました。コロナでしばらくカンボジアに行っておりません。去年も行っていなくて、現地の知人に頼んで持って行ってもらいました。写真が届きました。前年もそうでしたが、今年もスクールバッグを送りました。



建物にうちの看板がついておりますけれど、これは 10 年ほど前に作った職員室であります。手前に見えるのがお菓子とスクールバッグと文房具。今年は分度器がないと言われてまして、分度器と定規とノートを送りました。皆さん、先輩方のお下がりももらって、ぼろぼろのスクールバッグを使ってみえたんです。



昨年から、カンボジアにお送りして、新しいスクールバッグで通学をされています。これはノートと分度器を配布したところです。



以上、無事終わりました、来年度も僕は国際奉仕委員長もしようと思っていますが、いろいろな面で国際奉仕に貢献できればいいと思っています。今回のロータリーの友にも投稿しようと思っています。中部経済新聞にも、掲載する予定しております。ご協力誠にありがとうございました。

新入会員卓話

高坂 昌志



今年の3月に入会させていただき、早いもので2カ月が経ちました。

まず自己紹介からさせていただきたいと思います。

1963年11月に中川区戸田で生まれました。小学校は地元の戸田小学校に通いました。中学校も地元の富田中学を卒業し、高校は県立名古屋西高校を卒業しました。ずっと公立

高校でしたが、大学受験は残念ながら失敗して、同年藤田保健衛生大学に入学しました。

1988年に卒業し、その後2年間大学病院で研修し、その後、眼科医になっていわけですが、なぜ私が眼科医になったかというのを話したいと思います。医師免許を取得すると、何科になるのも自由です。これも何か運命的な出会で眼科医になったわけですが、話すにあたって、白内障についても密接にかかわっていますので、白内障についてまず話していきたいと思います。

皆様ご存じだと思いますが、白内障というのは目の中のレンズに相当する水晶体が濁ってくる病気です。たんぱく質が変性して真っ白く濁ります。これは世界で言うと、実は失明原因の第1になっていまして、まだこれが世界では治らないという国々もあるのが現状です。

白内障の手術というのは結構古く、紀元前800年、インドに書かれた医学書にも記載があるぐらいです。その時代は何をやるかという、その濁った水晶体を針で突いて眼の中へと落とし込む。かなり痛いものだったそうです。

18世紀ぐらいになってくると、角膜、目のいちばんの透明なところですが、そこを切り開いて濁った水晶体を取り出す摘出手術が始まりました。ただ、レンズである水晶体の代わりに分厚い眼鏡をかける必要があったため、物が歪んで見えるとか、なかなかこれは不自然なものだったそうです。

さらに、時代が進んで20世紀初頭から半ばにかけて、ドイツのグレーフェやイギリスのリドリーによって白内障の手術が飛躍的に前進しました。それまでは水晶体を丸ごと摘出していましたが、水晶体を残して白濁した水晶体の核だけを取り出す手術をグレーフェが完成しました。

そして、取り出した水晶体の核の代わりになる眼内レンズが、1940年に開発されました。この手術が今の原型となっています。そのグレーフェとリドリーの白内障手術では、水晶体を取り出し、レンズを挿入するために、角膜を11ミリ以上切る必要がある。11ミリ切ると、角膜を縫い合わせる必要があるので、最初の手術では時間がかかっていました。1967年になると、アメリカの眼科医のチャールズケルマンという方が角膜の切開が3ミリで済む、超音波乳化吸引手術を開発し、その手術の安全性が向上して角膜を縫う必要もなくなるというすぐく画期的な手術方法が開発されました。そのケルマンの元に、日本から3人の眼科医が学びに行ったのですが、そのうちの一人が私の恩師である馬嶋慶直先生です。

彼は江戸時代から続く眼科の真島流の37代当主の方でした。今でも息子さんたち38代39代と眼科医は延々と続いています。

すが、中部地区では屈指の藤田医科大学教授となられ、真島先生だけがその手術を行っておりまして、私がお手術に
触れ合った時にすごいなと思って、この人についてこうと思
って、眼科医を選んだわけです。

1991年に大学院に入学することになり、それから卒業論文や
医学論文を書きますが、それも白内障関連で学位は医学博
士になりました。そのまま大学の方で助手とか講師もして長く
勤務しましたが、その間に大学というのは、研究と教育と診
療の3つをやらなくちゃいけないので、すごく忙しくて、子供
の幼稚園の運動会などに行くということは一切できず、残念
でしたが、この時は一生懸命仕事をしていました。どんな仕
事をしてたかという、眼内レンズの小型化です。3ミリで
超音波で取り出すことができましたが、まだ眼内レンズを入
れる時にわざわざ創口を広げなくちゃいけなかったの、何
とか3ミリから入るレンズはできないんだろうかと、手術
法の改良。それから後、術後に使う新しいお薬の治験のため
に日本中のドクターが集まって、新しい薬を出すために色ん
な仕事をしていました。そのまま大学院に残るという方法が
ありましたが、さすがに忙しくて疲れ、英文で論文書くのが結
構しんどくて、難しくなり、自分の住んだところが眼科の開業
医が3軒と少なく、地域の住民が不便を感じていたので、
そこに開業を考えました。この写真を開業した時の写真で
すが、当時の看護師長とお祝いに駆けつけてくれたのが旭鷲
山関と一緒に写っていますが、若かりし頃の私です。

中川区の新家で開業しているのですが、その前に3軒か
なくて、とても不便でした。それから以後、どんどん開
業医が近くに増え続けることになり、今となっては眼科医が
飽和状態です。高齢化に伴って白内障検査もすごく増えて
きましたが、さすがにコロナになったせいで、お年寄りの方
が受診されなくなったのと、近隣の眼科医が増えたので、最
近ちょっと下がり気味ですが、それなりに今でも手術はさ
せていただいています。

開業して22年を迎えることになってそれなりに長いこと
やってきて、地域の眼科医としては、少しでも医療に地域に
即して貢献できたかなと、今でも思っております。

米山学友 吳燕さんを囲む会

日時 5月25日 18:30より
場所 名古屋クレストンホテル9階
参加者 16名

米山学友 吳燕さん、プリヤンティカさん及びご家族
青少年交換留学生 リネーアさん
米山奨学生 ニヤットさん
武山、森田、磯部ご夫妻、長谷川、今村、後藤、田島、
事務局。



武山会長のご挨拶より開始



吳さんにクラブ20周年記念誌を贈呈



プリヤンティカさんにもお越しいただきました。



第12回理事会議事録

日時 6月1日 12:00~
場所 名古屋クレストンホテル例会場
出席者 武山、田島、松尾、亀井、長谷川、恵利、岩田、
堀江亮介、藤田、加藤、今村

議題

1. 次年度収支予算案の承認
2. 6月11日 チャリティフェス 最終連絡
3. 岡山丸の内RC交流会の収支報告
4. ロータリー財団年次寄付 一人150ドル目標より
不足にて、ニコBOXより補充の件
5. 青少年交換留学生 帰国時の見送りと出迎えの件
6. 青少年交換留学生 久保原由惟さん報告会の日にち
7. その他 新年度上半期会費請求書配布の件
事務局 賞与の件

今後の例会予定

6月15日(木) 例会変更「会長幹事慰労例会」
6月22日(木) 退任挨拶
6月29日(木) 休会

【ポリオ根絶根絶の達成に向けて】

ポリオプラスソサエティ (PPS)

第2 地域ポリオ根絶コーディネーター (EPNC) 伊藤雅基

ご存じの通り、国際ロータリーの最優先事項は「ポリオの根絶」です。GPEI (世界ポリオ根絶推進活動) では、2026年を根絶目標年としており、根絶までもう少しというところまでまいりました。

然しながら、自然災害、政治紛争などの厳しい状況下で根絶資金の確保は今まで以上に大切になっております。このほど、各地区にて主導していただく PolioPlus Society (ポリオプラス・ソサエティ : PPS) というプログラムのご紹介とご参加のお願いをしたいと思います。

➤ ポリオプラス・ソサエティ (PPS) とは

このプログラムは、あと少しとなったポリオ根絶までの活動資金の安定と増加にご協力いただくため、地区単位でポリオ根絶まで毎年100米ドルを「ポリオプラス」にご寄付いただくロータリー会員の参加・登録を進めていただくものです。

ポリオプラス・ソサエティの始まりは2016年にさかのぼります。第5110地区 (アメリカ、オレゴン州) の当時のデル・グレイ地区ガバナーとベンド・ハイ・デザートロータリークラブのハリエット・シロアー氏の考案によるものでした。第5110地区がこのプログラムを始めると間もなく他の地区でも PPS プログラムの導入を始めました。その後、第27ゾーン、第26ゾーンの地区へと導入が広まり、その後、世界の各地区での活動に広がっています。

➤ ロータリー財団とポリオプラス・ソサエティ (PPS)、日本国内での推進

隔月で行われる世界のポリオ根絶コーディネーター (EPNC) ZOOM 会議において PPS プログラム導入を各地域において進める打ち合わせが行われてきました。そして、ロータリー財団管理委員会において2022年10月に「クラブと地区が運営する PPS を支持し、独自の寄付者認証のガイドラインを作成することに同意する」ことが決定されました。

日本国内3地域のポリオ根絶コーディネーターが打ち合わせを重ね、昨年のロータリー研究会でジェニファー・ジョーンズ RI 会長からの依頼もあり、3地域において同時に PPS プログラムを推進することとなりました。

➤ ポリオプラス・ソサエティ (PPS) 登録者へバッジ・登録証の贈呈と寄付の扱い

このプログラムには、すでに世界の多くの国々のロータリー会員が参加しており、ロータリー財団の「ポリオプラス」へ毎年100米ドルの寄付をお約束いただいた方には登録証とソサエティメンバーのピンバッジを受取っていただくことになっております。



なお、このご寄付はロータリー財団の寄付実績に反映され、ポール・ハリス・フェロー認証の対象となり、クラブ・地区の実績にも反映されます。また、ビル&メリンダ・ゲイツ財団より2倍の上乗せ

がございます。なお、例えば3年分として一括300ドルを寄付されると、1年目300ドル、2年目・3年目はゼロとしての計上となってしまいますのでご注意ください。他の年度の分を一度に寄付するということではできません。

➤ 実施は地区主導

PPS プログラムの実施は地区主導となっているため、地区が、クラブと共に PPS の案内とメンバー募集、登録者データの管理、登録証の作成とピンバッジの配布を行うこととなります。このプログラムについての問い合わせは各地域のポリオ根絶コーディネーター (EPNC) までお願いいたします。

➤ スポットニュース

5月10日に、かつて WHO 西太平洋事務局長としてアジア全域を含む地域でのポリオ根絶を果たされ、感染症の権威でもある現 (公財) 結核予



防会の尾身茂理事長とポリオ根絶についてお話をする機会がありました。この中で、「ポリオ根絶への日本を含む国際ロータリーの継続的な活動にあらゆる機会を通じて深い感謝を伝えています。本当にありがとうございます」と仰られ「ポリオ根絶の意義は、小児のみならず世界の国家に多大な貢献をすることにあります」そして、「間近となった根絶には各国政府の積極的な関与が不可欠です。是非ロータリーの皆さんと共に達成したいと考えています」と尾身理事長のポリオ根絶に対する熱意を改めて感じることができました。

ポリオプラス

社会的規範への取り組み

エジプトのギザには、世界的に有名なピラミッドだけでなく、現代医療の粋を集めたポリオ研究所 (Polio Regional Reference Laboratory、略称 RRL) があります。

そこで所長を務めるアミラ・ザグルールさんは、五つの部門を統括し、25人のチームと密に連携しています。子どもから採取した便や汚水サンプルを基に、定期的なポリオウイルス検査を行っています。さらに、エジプト、イラン、イラク、ヨルダン、スーダン、シリアでポリオ陽性と確認されたサンプルの塩基配列を確認し、その配列がほかのポリオウイルスと関連しているかどうかの判断を行っています。ポリオウイルスが検出された際に、厳しい時間的制約の中で迅速に対応することを目標としています。

【野生型ポリオウイルスによる症例数】

掲載サイト: GPEI ウェブサイト(英語)

		2023年 1月1日～ 5月23日	2022	2021	2020
常在国	パキスタン	1	20	1	84
	アフガニスタン	2	2	4	56
非常在国外	モザンビーク	0	8	0	0
	マラウイ	0	0	1	0
世界合計		3	30	6	140